

第1回新型コロナウイルス感染症対策委員会記録

1 会議の日時	令和2年3月6日	開 会 午後 3 時 3 0 分 閉 会 午後 5 時 0 0 分
2 会議の場所	議会西棟第1会議室	
3 出席者	委 員	全 議 員
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	事務局長 市川篤丸 議事調査課長 籠橋智基 他関係職員	

5 会議に付した案件		
件	名	審 査 の 結 果
1	新型コロナウイルス感染症について	
2	県内の感染状況について	
3	アクションプランについて	

## 6 議事録（要点筆記）

### ○小川恒雄委員長

ただいまから、第1回新型コロナウイルス感染症対策委員会を開催する。

昨年末から中国を中心に世界中に感染が広がっている新型コロナウイルスについては、国内でも、1月に初の感染者が確認された後、本県を含めて全国各地で感染経路が明らかでない報告が相次いで発生している。

2月下旬には、患者の増加スピードと流行の規模を抑制するための対策を盛り込んだ国の基本方針が決定され、本県でも、2月末には対策アクションプランが取りまとめられ、一昨日には、関連する補正予算案が提出され、議会としても認めたところである。

本日は、新型コロナウイルス感染症に対する理解を深め、県内の感染状況、さらには、対策アクションプランの内容を把握するため、第1回の対策委員会を開催するに至ったものである。

それでは、最初の議題として、新型コロナウイルス感染症について、岐阜大学医学部附属病院副院長で、生体支援センター長でもある。村上啓雄教授に説明をお願いします。

（村上教授説明）

### ○小川恒雄委員長

ただいまの説明に質疑はないか。なお、質疑は一問一答でお願いします。

### ○田中勝士議員

新型コロナウイルス感染症で重症化したり、死亡するのはどういう方が多いのか。

### ○村上啓雄教授

一番死亡率が高いのは、基礎疾患のうち心不全など、心疾患系の方。次に多いのは、糖尿病や、慢性呼吸器疾患、例えば肺気腫や慢性気管支炎など、あるいは腎不全を有する方。ほかにも喘息があげられる。それらの基礎疾患で免疫力が落ちている方は重症化や死亡する可能性が高くなる。また、年齢の影響もあり、高齢になるほど死亡率は高くなる。

### ○田中勝士議員

新型コロナウイルス感染症と気温や湿度との関係性は、これから春に向かって終息していくのか。

### ○村上啓雄教授

新型コロナウイルスがこういった動態をとるかはまだわかっていない。SARSやMERSも比較的温暖な地域で流行したため、気温が温かくなるから必ず終息するわけではない。現時点で明確なお答えはできない。

### ○田中勝士議員

新型コロナウイルス感染症は、ご説明を聞く限り、とりたてて危険性が高いウイルスではないとの印象を受けたが、県民にそういった説明をすると、県民からは「それならばなぜこれほどの厳しい対策を取っているのか」という質問をいただく。そういった県民の方にどのように説明するのが良いか。

### ○村上啓雄教授

新型コロナウイルス感染症は、中には重症化する方もいるため、危険性はある。子どもから重症化し

やすい高齢者に感染させないようにするという意味では、政府の小中高校の休校要請は一定の意味があると思う。県民への説明にあたっては、私が先ほど説明したように、他の感染症との死亡率の比較、PCRの意味、無症状者からの感染リスクの有無などの正しい情報をもとに、通常感染症予防策をとれば感染リスクは極めて低くなるということを丁寧に説明いただきたい。

○高殿尚議員

イベントなどの中止が相次ぐ中、今後どういふことを基準にすれば、自粛ムードを開催の方向に戻していけるか。終息とはどういった状況になれば言えるのか。

○村上啓雄教授

一般に潜伏期間の2倍の期間、新たな感染者が出ない場合は終息したと言える。インフルエンザの場合は潜伏期間が3日のため、1週間程度、症例が出なければ、終息したと言える。コロナウイルスは潜伏期間が2週間あるため、基準は4週間程度となる。

また、峠を越えると言ってもインフルエンザのように鋭い峠でなく、緩やかな山が長く続くと考えられるため、完全に終息に至るまでイベントを自粛するのが妥当なのかどうかは、議論が必要。イベントでも、例えば、しっかりと感染症対策を行える方が集まるイベントであれば開催しても構わないと思うが、国民全員がそのように対応することを期待することは難しいため、一律に基準を設けることは困難。

○加藤大博議員

治療方法が確立されていないことなどから、厳格な対応が必要だということは理解できた。今後、季節性インフルエンザのように、定着し長く付き合っていくことになるかと予想しているが、一旦、目途が付いた後はどのような対策をとっていくべきか。

○村上啓雄教授

新型コロナウイルス感染症が季節性かどうかはまだ判断できない。SARSやMERSと同様に治まる可能性はある。3分の2の国民が感染すれば全体の免疫力が付き、落ち着いていくと言われているが、詳しいことはまだわかっていない。

○川上哲也議員

潜伏期間中は感染しないということによいか。

○村上啓雄教授

潜伏期間中は無症状のため、基本的には家族のように、粘膜が触れ合うような濃厚接触がない限りは感染しない。

○川上哲也議員

潜伏期間でも、咳などすれば飛沫感染があり得るのではないか。

○村上啓雄教授

潜伏期間は無症状。咳をしていないことが前提の状態。

○川上哲也議員

会食の場のように、至近距離で無症状者からつばを直接かけられることがあれば感染するのではないか。

○村上啓雄教授

想定しづらい状況だと思うが、至近距離で無症状者からつばがかけられることがあれば感染する可能性はあるので、今は大勢の人が集まる会食などの場に出ていくことは避けたほうが無難である。

○長屋光征議員

マスコミなどの媒体で様々な医療関係者がコメントしているが、発言内容が様々で、統一性がないことについてはどう考えるか。

○村上啓雄教授

厳しいご意見。個人的な見解だが、マスコミでは、感染症対策の専門家や、感染症の研究者など、立場が違う方がそれぞれ意見を述べておられるからだと思う。必ずしも十分な知識を持った専門家ではない方が発言していることもあると思う。

○小川恒雄委員長

質問も尽きたようですので、最初の議題については終了する。続いて、県内の感染状況と、県が策定したアクションプランについて、執行部より説明をお願いします。

(堀健康福祉部次長説明)

(市橋健康福祉部参事説明)

(坂井総合教育センター長兼学校支援課長説明)

(河田私学振興・青少年課長説明)

(古田子育て支援課長説明)

○小川恒雄委員長

ただいまの説明について質疑はないか。

○今井政嘉議員

雇用継続を図るため従業員に対して行う研修とは具体的に何か。

○兼松観光企画課長

国の制度である雇用調整助成金は、事業活動の縮小を余儀なくされた場合に従業員の教育訓練や出向を行う事業主に助成する制度である。当初、適用される事業主の範囲が、中国関係の売上高や客数等が一定割合ある者に限定されており、その要件を撤廃するよう要請することとしてきたが、国によりすでに撤廃され、使いやすい制度となった。そのため、新たな県独自の制度は現在見合わせている。

○水野吉近議員

アクションプラン中、イベントにかかる3月16日以降の方針については、市町村にも周知されているのか。

○市橋健康福祉部参事

市町村には協議会の場で説明しており、また文書も発出している。聞き取りをした限りでは、各市町村、同様の対応をさせていただいている。

○水野吉近議員

ここに記載されている方針にある条件さえ満たしていれば16日以降は各市町村は自粛せず、実施してよいというメッセージを出したと理解してよいか。

○市橋健康福祉部参事

今後、15日までの状況を鑑みながら判断していくということ。

○水野吉近議員

確認だが、16日になったら改めて市町村に方針を伝えるということではいか。

○市橋健康福祉部参事

16日に間に合うよう市町村と連携を図っていく。

○平野祐也議員

大垣市が放課後児童クラブを開設しない理由は。

○古田子育て支援課長

大垣市においては、現に感染者が発生している地域であり、感染防止を最優先に考え、2週間閉所を徹底するという判断をされたものである。

○平野祐也議員

他の自治体で感染者が発生した場合、県として閉所を要請するのか。

○古田子育て支援課長

クラブ利用の児童等が感染した場合は、そのクラブの閉所や感染者の利用停止を要請しているところ。自治体全体での対応については、まずは各自治体でご判断いただくことになるが、必要に応じて、県も相談に対応していくことになる。

○田中勝士議員

千葉県感染症患者が大垣市内を訪問し、宿泊施設に宿泊した事案だが、当該宿泊施設は消毒や一定期間の閉鎖などは行ったのか。

○堀健康福祉部次長

大垣の事案は保健所が宿泊施設の接触者の状況について確認し、7名が同定され、その方々については、2週間、健康状態の観察を行った。他にも接触者があれば同様であるが、その期間中、営業を停止するという措置はとっていない。消毒については、保健所が当該宿泊施設に対して実施しており、エレベーターのボタンや手すりなど多くの方が触れる部分を消毒をしたと聞いている。

○田中勝士議員

具体的な宿泊施設の名称が公表されなかったため、大垣市内の宿泊施設のキャンセルが相次いだと伺っている。今後、同様の事案が発生した場合、施設名を公表することは考えているか。

○堀健康福祉部次長

基本的に今後も詳細な立ち寄り先、入院された医療機関は公表しない方針。ただし、医療機関の従事者で患者が出た場合などは公表している例が全国的に多く、それに倣った対応を検討していくこととなる。

○田中勝士議員

明確な公表のルールはないのか。

○堀健康福祉部次長

基本的な考え方は厚労省より示されているが、現状の運用については都道府県に多くの部分が委ねられているところ。

○若井敦子議員

アクションプラン中の消毒液の確保などについて、ニーズを把握して国に要請するとのことだが、それは高齢者施設を含んだ県内すべての施設に照会されるのか、またどんな形で照会するのか。

○森保健医療課管理監

県でもマスクの確保についてあらゆる努力をしているが、全国的に不足している状況。国が増産する方針を示しており、特に医療機関で不足していると聞いているため、医療機関の状況を聞き、国に対して供給体制の確立を求めたところである。

○板津健康福祉部課長

高齢者施設についても厚労省が市町村を通じ、需要の調査を行っている。県としては、来週半ばに発表される国の緊急対策を踏まえ対応していきたい。

○若井敦子議員

県内にマスクを生産する企業がある場合、その企業に対する県の助成金制度はあるか。

○板津健康福祉部課長

県においてマスクの生産設備の増強に特化した補助金はないが、一般的に、生産設備の増強に対して補助を行う制度は国においてもあり、県においても一部ある。

○長屋光征議員

県有施設の関係で、指定管理者に対する補償等を行う予定はあるか。

○市橋健康福祉部参事

施設により事情が異なるため、今後、各施設の状況に応じて柔軟に対応していきたい。

○小川恒雄委員長

意見も尽きないが、これをもって第1回新型コロナウイルス感染症対策委員会を終了する。

# 第1回 新型コロナウイルス感染症対策委員会 配席図

令和2年3月6日(金) 15:30~  
議会西棟 3階 第1会議室

					狩野 体育健康課長	青山 特別支援教育課長	森島 人事課 人事管理対策監	瀬川 地域スポーツ課 スポーツ施設企画監	幸畑 公共交通課長兼 リニア推進室長	岩田 公共建築課長				
--	--	--	--	--	--------------	----------------	----------------------	----------------------------	--------------------------	--------------	--	--	--	--

田口 農政課長	可知 林政課長	金武 都市公園課長	松本 教育総務課長	松田 税務課長	高橋 管財課長	広瀬 消防課長	前田 県民生活課長	足立 農業経営課長	井戸 農産園芸課長	後藤 畜産振興課長	林 技術検査課長	有田 文化伝承課長	久野 商業・金融課長	大城戸 労働雇用課長
------------	------------	--------------	--------------	------------	------------	------------	--------------	--------------	--------------	--------------	-------------	--------------	---------------	---------------

入口

古田 子育て支援課長	河田 私学振興・青少年 課長	坂井 総合教育センター長 兼学校支援課長	森 保健医療課管理監	井戸 保健医療課 感染症・疾病対策監	浅井 健康福祉政策課長	堀 健康福祉部次長	兼山 健康福祉部長	市橋 健康福祉部参事	板津 健康福祉部課長	鹿嶋 健康福祉政策課 管理監	林 健康福祉政策課 管理監	子林 文化創造課長	桑田 商工政策課長	兼松 観光企画課長
---------------	----------------------	----------------------------	---------------	--------------------------	----------------	--------------	--------------	---------------	---------------	----------------------	---------------------	--------------	--------------	--------------

○ 説明者  
岐阜大学医学部附属病院副院長  
・生体支援センター長・教授  
村上啓雄 氏

○ 議長  
○ 副議長  
○ 議事局長

議 員 席